

(様式2)

令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和7年 3月24日
札幌市立 稲積 中学校

1 基本方針

- 1 生徒が自ら学ぶ力を育てるため、一人一人を大切にしたい、個に応じた教育の推進に努める。
- 2 心の教育を大切にしたい、確かな学力、豊かな人間性、健康・体力を支える力のバランスのとれた育みに努める。
- 3 教育課程を適正に実施し、部・学年・学級・教科経営の充実に努め、特別委員会の適切な運用を図る。
- 4 保護者や地域住民の意見を反映した学校評価による学校運営の工夫や改善に努める。

2 学校経営の重点

- ・人間尊重の教育の推進
- ・「学ぶ力」育成に向けた教育の推進
- ・特別な配慮を必要とする子どもへの教育の推進
- ・安全教育・防災教育の推進
- ・家庭・地域に信頼される教育活動の推進

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	次年度の方向性	自己評価の適切さ	方向性の適切さ
教育課程	学習指導要領に基づいた調和のとれた教育課程を編成・実施している。	A	・5教科の二期制を視野に入れ、余裕を持った教育課程の編成を目指す。 ・自ら疑問や課題をもち、主体的に解決する「課題探求的な学習」を取り入れた授業構築を目指し、校内研修を深めていく。	A	A
	「札幌らしい特色ある学校教育」(雪・環境・読書)に取り組んでいる。	A	・スキー学習実施にあたり、学年単位での実施を行いバスの台数を工夫するなどして価格高騰に対応する。 ・雪かきちょボラ、エコライフレポートの取組の他、文化委員会が中心となった読書推進運動のさらなる充実に努める。	A	A
学校関係者評価者による意見		委員会を中心とした生徒の主体的な活動、「課題探求的な学習」を取り入れた授業構築に引き続き取り組んでほしい。			
学習指導	自ら疑問や課題をもち、主体的に解決する「課題探求的な学習」を取り入れた授業の工夫を行っている。	A	・校内研修会で方向性を定め、年間を通じた研究授業を今後も継続する。全ての教科においてAARサイクルの視点に沿って授業改善に取り組む。	A	A
	基礎・基本の確実な定着を図っている。	A	・TTや学びのサポーター制度を活用しながら、少人数による個に応じたきめ細かな指導を充実させ、分かる・できる喜びを実感させていく。	A	A
	適切な評価基準を設定し効果的な教科指導と妥当で信頼性の高い評価に努めている。	A	・校内研修で評価の在り方について、より一層の研修を行い、各教科の足並みをそろえ「指導と評価の一体化」に努める。	A	A
学校関係者評価者による意見		教員全員が研究授業を行うことはなかなかできることではない。AARサイクルに沿った授業改善、「指導と評価の一体化」に努めるべく、今後も研修を進めていってほしい。			

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	次年度の方向性	自己評価の適切さ	方向性の適切さ
生徒支援	信頼関係に基づいた、一人一人の良い面を伸ばす指導を行っている。	A	・様々な教育活動で、できるだけ生徒の意向をくみ取り、対話を重ねて、合意形成を図ることを意識する。	A	A
	生徒が安心して生活できる学級づくりに努めている。	A	・生徒一人一人が「自分が大切にされている」と実感できるよう、常に生徒に寄り添いながら、細かなサインを見逃さず、励まし、支える関わりを大切にする。	A	A
	相談活動を基盤とした共感的な生徒支援に努めている。	A	・年2回の教育相談活動の他、新たに導入された「心の健康観察アプリ」を活用し、積極的な生徒理解、生徒支援に努める。	A	A
	様々な困り感を抱えた生徒に対する、丁寧な対応と支援を工夫して行っている。	A	・校内学びの支援委員会を機能させ、特別支援コーディネータを中心に、個々の生徒の状況によって、心の教室や外部機関と連携を図る。	A	A
	いじめについては、いじめ防止基本方針に基づいて組織で判断・対応している。	A	・今年度より、月1のいじめ防止対策委員会を開催した。 ・今後もいじめが有る無しに関わらず、SC、SSWとも連携しながら、いじめの未然防止、早期対応に努める。	A	A
学校関係者評価者による意見	見て見ぬふりをせず、常に生徒に寄り添い、細かなサインを見逃さない生徒支援が素晴らしい。このまま継続していただきたい。				
豊かな心	子ども一人一人が「自分が大切にされている」と実感できるよう学校づくりに努めている。	A	・教職員自らが人間尊重の意識の向上を常に念頭に置き、子どもの伸びを認め、意欲を高める前向きな声かけを心掛ける。 ・さっぽろっ子サミットの取組を発信する場を設け、子どもの声を「聴く」「応える」ことを大切にしていく。	A	A
	他者を思いやる心の育成に努めている。	A	・他者を思いやる心を育む、生徒会による「メッセージカードづくり」を生徒が主体的に実施した。 ・心を育てる視点を常にもち、保護者との連携を大切にしながら生徒への支援に努める。	A	A
	積極的なあいさつができるように働きかけている。	A	・教師自ら「さわやかな挨拶」を実践することから、子どもたちの心を育てる。 ・生活委員会が中心となった「挨拶運動」「ポスターによる啓発」の他、さらに新たな活動を模索していく。	A	A
たくましい心身	心身ともに健康で、望ましい生活習慣を身に付けるよう働きかけている。	A	・昼休みのグラウンド開放を新たに行った。今後は、格技室を活用した卓球等の活動の企画や、さらなる用具の充実を図る。 ・年間を通じたシャトルラン（通常）12分間走（6組）を継続する。	A	A
健全な社会性	行事等で仲間と協力して取り組めるように働きかけている。	A	・学校祭や合唱発表会等「本物の活動」を通して、生徒が互いの良さや可能性を認め合える人間関係づくりに努める。	A	A
学校関係者評価者による意見	委員会が機能し、生徒が自分達の学校を自分達で創りあげていることが活動反省から伝わってくる。稲積中学校の生徒は屈託がなく、皆挨拶が素晴らしい。				

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	次年度の方向性	自己評価の適切さ	方向性の適切さ
情報教育	ICT機器の適切な取り扱いや情報モラル教育に積極的に取り組んでいる。	A	・今後も地域や関係機関と連携した情報モラル教育の推進に積極的に取り組む。 ・ICT係が中心となり、活用事例を発信したり、研修の機会を設定し、学校全体の情報教育の充実につなげる。	A	A
学校関係者評価者による意見		地域や関係機関と連携した情報モラル教育を今後も推進してほしい。			
防災教育	避難訓練等の取組の工夫および防災教育に努めている。	A	・子どもが自ら適切な判断のもと、主体的に行動できるよう、生徒の実態に照らし合わせた予告なしの避難訓練を実施する。	A	A
学校関係者評価者による意見		生徒が皆の安全を守るための行動を意識できるようになることが何よりも大切である。いざという時にしっかりと指示を聞くことができるよう、今後も防災教育に力を入れてほしい。			
特別支援教育	障がいのある生徒や特別な支援が必要な生徒が積極的に学べる教育環境を整備している。	A	・校内学びの支援委員会が中心となって、特別な配慮が必要な生徒に対する対応等についての研修を深める。特別支援コーディネーターを中心に、担任、相談支援パートナーや学びのサポーターとの連携を積極的に行い、心の教室を運営する。	A	A
	行事や日常の活動場面を通じて特別支援学級との連携を進めている。	A	・旅的行事、スポーツフェス、稲積ふれあい活動等の活動を通じて、インクルーシブを重視した連携を進め、交流及び共同学習を推進する。	A	A
学校関係者評価者による意見		特別支援学級と通常学級の生徒が、お互いに尊重しあい交流学習や共同学習を行うことができている。今後もぜひ継続してほしい。			
環境作り	清掃活動や校内美化活動を通して、清潔で潤いのある環境づくりに努めている。	A	・日常の清掃活動を継続する。清掃強化日週間については、より生徒が主体的に取り組めるよう、委員会活動の取組を充実させる。	A	A
学校関係者評価者による意見		生徒が主体となった活動を通して、先輩が実践したことを後輩が受け継いでいけることができるよう、引き続き委員会活動の取組を充実させてほしい。			
家庭地域	生徒、保護者、地域に向けて積極的に情報を発信している。	A	・学校・保護者間連絡システムによる情報発信の他、HPの整備を進め、本校教育活動の最新情報を積極的に発信していく。 ・学校だよりは紙媒体で地域に配付する。	A	A
	学校・家庭・地域が一体となった義務教育9年間を見通した子どもの育成に向け、工夫をした取組をしている。	A	・稲積中学校区小中一貫した教育の取組では、パートナー部会で上がった要望と次年度実施校である稲積中の声を反映して計画を策定する。 ・9年間のつながりある教育の実現に向け、持続可能なコミュニティースクールの導入を進める。	A	A
学校関係者評価者による意見		地域の落ち葉清掃にも多くの生徒が参加しており素晴らしかった。R7よりCSが準備段階に入る。生徒会による稲積公園の清掃活動も行っているが、その活動が、稲積ふれあい祭等の地域の行事にも良い影響を与えているということを生徒が認識し、地域とのつながりをさらに深めていけることを期待している。			